



早朝の魚市場に活気！

大分市公設市場で初競り

大分市公設地方卸売市場(豊海)で5日、本年の初競りがあった。早朝から競り人らの威勢の良い声が響き、市場に活気があふれた。



水産部では5時半から初競り式が行われ、開設者の足立信也市長らが挨拶した。
県漁協の中根組合長は出荷者代表として「本年11月に開催される第43回全国豊かな海づくり大会では本県の多彩な水産物を県内外に広く発信したい。皆さんの絶大な協力をお願いする」と力強く宣言し、新年の挨拶とした。

JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.if-oita.or.jp/>



5日、大分県農林漁業関係団体新年合同互礼会を大分市内のホテルで開催した。全体で約170名、水産からは県漁協の役員、各団体の幹部職員ら30名が参加した。
冒頭、能登半島地震による被災を悼み、参加者全員で黙祷を捧げた。
関係団体を代表して県漁協の中根隆文組合長が「燃油や飼料の高騰、中国による日本産水産物の輸入全面禁止など、農林水産業を取り巻く環境は目まぐるしく変動している。そのような中、各団体の努力は徐々に実を結びつつあり、本年が明るい年となるよう祈念したい」と話した。

農林漁業 発展の年に

関係団体新年合同互礼会を開催

次いで、佐藤樹一郎知事が来賓挨拶。元吉俊博県議会議長の音頭で乾杯して歓談し、尾野賢治副知事の万歳三唱で会をお開きとした。

2 面

能登半島地震を悼む
無事故支店に認定証



第10回
理事会

3 面

水研だより
(漁海況)



4 面

水研情報



5 面

効果を発揮!
貝藻くん



6 面

桑原政子氏
受章祝賀会

令和6年

水産団体新年互礼会開催

努力成就の年に！

中根組合長挨拶(抄)

水産団体の皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年を振り返りますと、コロナウイルス感染症が五類に移行し、経済活動は回復の兆しを見せてまいりました。
一方、ウクライナや中東の紛争長期化による燃油、飼料や諸資材の価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う中国による日本産水産物の輸入全面停止もあり、水産業を取り巻く環境は引き続き厳しいものとなりました。
このような中、本年はいよいよ十一月に「第四十三回全国豊かな海づくり大会・おんせん県おおいた大会」が開催されます。本県の魅力あふれる多様な水産物や「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国に広く発信したいと思っております。さらに、漁業公社国東事業場の種苗生産施設や佐伯市蒲江の県漁協水産物処理加工施設を活用し、大会を契機に水産資源の増大、水産物の販売促進に取り組みます。
本年は、甲辰の年であります。「甲」は植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があり、今年の辰年は昨年まで努力が実を結んで成就する年になると言われております。
皆様とともに「おんせん県おおいた大会」を成功させ、「豊かな海」と「活力ある水産業」を実現してまいります。
新しい年がより良き年になりますよう心より祈念いたします。
いっしょに頑張りますよ！

水 研 だ よ り

大分県長期漁海況予報

大分県農林水産研究指導センター水産研究部(資源増殖チーム)は、本年1月から6月までの海水温、漁模様の見通しを発表した。概要は以下のとおり。

○今後の海況の見通し

■黒潮

- ・都井岬沖では、1～3月にかけて離岸傾向で推移し、その後接岸傾向で推移するでしょう。
- ・足摺岬沖では、接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがあるでしょう。
- ・大蛇行が継続する可能性が高いでしょう。

■沿岸水温

- ・沿岸水温は、「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

○今後の漁況の見通し

■マイワシ

- ・豊後水道南部への来遊量は、前年並～上回るでしょう。(2023年1～6月:57トン)
- ・1～3月は被鱗体長15～20 cm前後の1～2歳魚(2022～2023年級群)が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12 cm前後の0歳魚(2024年級群)が主体となるでしょう。

■カタクチイワシ(成魚)

- ・豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2023年1～6月:37トン)
- ・1～6月は0～1 歳魚(2023～2024年級群)が水揚げの主体となるでしょう。

■ウルメイワシ

- ・豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2023年1～6月:126トン)
- ・1～3月は被鱗体長15～20 cm前後の1歳魚(2023年級群)が主体となり、4～6月は被鱗体長10 cm前後の0歳魚(2024年級群)が水揚げの主体となるでしょう。

■マアジ

- ・豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2023年1～6月:321トン)
- ・尾叉長15 cm前後の1歳魚(2023年級群)が主体となり、20cm以上の個体が混じるでしょう。

■サバ類

- ・豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2023年1～6月:1,582トン)
- ・1～3月は尾叉長25～35cm前後のマサバ2～3歳以上(2021～2022年級群以上)が主体となり、4月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。

詳細は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部のHP「長期漁海況予報」まで

<https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisan/gyokaikyuu-chouki.html>

令和7年度の研究課題を募集中!

県農林水産研究指導センターは、農林水産業の振興に役立つ「令和7年度の研究課題」を募集しています。漁業や養殖業の現場が抱える技術的な課題などご要望がありましたら、組合員や役職員の皆さんの積極的な提案をお願いします。

【採択基準】は次のとおりです。

- ① 試験研究基本指針との整合性を確保しながら、生産現場等において緊急に解決すべき課題を選択する。
- ② 下記に該当するものは不採択とする。
 - ・該当試験研究機関の試験研究業務の範囲を超えているもの
 - ・試験研究成果の普及効果が小さいと考えられるもの
 - ・実現の可能性が極めて低いと考えられるもの
 - ・現在、一部又は全部について研究に着手しているもの
 - ・本県または近県の既存成果が活用できるもの

【募集期間】は次のとおりです。

- 令和6年1月10日～令和6年3月10日

【応募方法】は、大分県農林水産ポータルサイトの「農林水産関係の試験研究に対する要望を募集します」(下記)を参照し、

- 「試験研究に対する要望調書」を作成し、電子ファイルで県農林水産研究指導センターあるいは県漁協本店に提出してください。アイデアはあるが要望調書が作成できない場合も、本店(本庄)までご相談ください。

農林水産関係の試験研究に対する要望を募集します

<https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisan/bosyuu20240110.html>

【参考】令和6年度水産試験研究課題(予定)

- 水産研究部
 - ・県産養殖ヒラメの周年安定生産に向けた耐病性系統の選抜育種
 - ・先端技術を用いた赤潮の監視体制の整備及び持続可能な赤潮発生抑制技術開発
 - ・健全な海産養殖魚を生産するための魚病対策技術開発
- 北部水産グループ
 - ・高級魚キジハタの種苗生産技術開発
 - ・有用海藻類の増・養殖技術の開発



水産研究タイムリー情報

人工種苗ヒジキの生育順調

【12月27日・北部水産グループ】

国東市の黒津漁港内で中間育成している人工種苗ヒジキが順調に生育しています。当グループで5月29日に採苗し、7月18日に数mmの大きさに中間育成を開始したヒジキの状況を確認したところ、12月18日時点で主枝長は平均6cm、最大で18cmに生長していました(日齢203日)。



ヒジキ養殖はじまりました

【12月27日・北部水産グループ】

本県瀬戸内海沿海の3地区(富来、国東、別府地先)で、天然ヒジキを養殖ロープに挟み込んだ養殖が11月7日から順次始まりました。3地区の養殖規模は、養殖ロープでのべ6,730mです。収穫は来年5月の予定で、当グループでは収穫量向上技術などの養殖指導を行っています。



養殖ロープに挟み込まれたヒジキ

ノリの収穫はじまる

【12月27日・北部水産グループ】

中津市地先で養殖されているノリの収穫が12月13日から始まりました。ノリは平均14cmに生長(長いもので18cm)しており、病害もなく色も良好です。寒風の中、2月下旬まで作業が続く、本県周防灘地先の冬の風物詩です。



養殖オゴノリの生育順調

【12月27日・北部水産グループ】

宇佐市地先で現地養殖試験を実施しているオゴノリが順調に生育しています。当グループで5月31日に採苗し、7月14日に平均4cm(主枝長)で現地養殖を開始したオゴノリの状況を確認したところ、12月11日時点で平均14cm、最大で30cmに生長していました(日齢196日)。



かぼすブリの出荷前検査を行っています！

【12月18日・水産研究部】

正月用の養殖ブリの出荷がまもなく始まります。当研究部では年末に出荷する「かぼすブリ」の切身の色変わりを抑えることができているかを調べるため、出荷前検査を実施しています。品質をチェックすることで、味よし・香りよし・見た目よしの三拍子そろった「かぼすブリ」を養殖業者は安心して出荷できます。



タチウオの耳石を採取しました！

【12月11日・水産研究部】

耳石とは頭の中にある硬い組織で、多くの魚種で樹木の切り株のように年輪が刻まれています。今回、豊後水道で漁獲されたタチウオから耳石を採取しました。薄く研磨した耳石から読み取られるタチウオの年齢からは生まれた時期等が推定され、これらの情報は資源評価や資源管理に活かされます。



タチウオの耳石(長さ約5~10mm)

効果を発揮する！ JFシェルナース・貝藻くん

貝藻くん効果調査 報告



YouTube



【貝藻くん】

- ・事業主体：JFおおいた日出支店
- ・対象種：マナマコ

【調査DATA】

- ・調査日 : 2023年10月26日
- ・場所 : 大分県日出町大神地先
- ・水深 : 5.6m
- ・調査対象 : 貝藻くん
(沈設2年7カ月経過)

◎主な調査結果

- ・ 貝藻くんの裏ではマナマコやサザエが1基当たり1~4個体確認できた。
- ・ メバル、カサゴ、アオハタ、マハタ、オオモンハタ、カワハギ、アオリイカ、マダコなど多くの魚類が貝藻くんを利用していた。
- ・ 海藻類では大型褐藻類の着生が見られた。
- ・ 周囲海底にはコアママコが繁茂していた。



▲ 報告会の様子

海藻類も着生しており、魚類の隠れ場にも利用されていた。貝藻くんの裏ではマナマコの夏眠場として効果を発揮していることが分かった。

◎調査結果



マナマコ



マナマコ

貝藻くん裏で夏眠するマナマコ



サザエ



メバル



カサゴ



マハタ



マダコ



大型褐藻類(ノコギリモク)

栄えある旭日単光章を受章 桑原政子氏の祝賀会 盛会



昨年秋の叙勲で「旭日単光章」を受章した桑原政子氏の祝賀会が27日、佐伯市のホテル金水苑であった。地元商工観光関係者をはじめ歴代の水産業改良普及員らも顔をそろえ、桑原氏の受章を称えた。

桑原氏は平成16年に漁村女性グループ「めばる」を結成し、佐伯市鶴見で水揚げされる新鮮な水産物を用いた「ごまだし」の開発や販売に取り組み、郷土料理の知名度向上や原料となる水産物の付加価値向上に貢献した。また、地域の子供達を対象とした魚料理教室の開催や、「ごまだし」を用いたレシピ集の発刊、各種料理コンテストでの受賞など、子供から大人まで幅広い世代への魚食普及に尽力した。「めばる」の活動は、漁村女性による起業のモデルケースとして全国的な評価を得て、農林水産業の女性が活躍できる社会の実現に貢献した。

これらの功績により、平成21年には第14回全国青年・女性漁業者交流大会では農林水産大臣賞を受賞、翌22年には県女性のチャレンジ賞、令和2年には農林水産功労者として県知事表彰を受けている。

祝賀会では発起人代表の小谷晃文氏が桑原氏の功績を紹介、来賓を代表し田中利明佐伯市長が祝辞で受章を称えた。

桑原氏は「受章は皆様のご支援、ご芳情の賜であり、今後のご厚情に報いるべく微力を尽くす」とお礼の言葉を述べた。

今回の受章は、水産業や漁村地域の振興に係わる者の励みとなる慶事であり、永くその功績を伝えていきたい。

県産魚の日
今回は「かぼすヒラメ」
1月26日
(金)

先着 100 名様に
「かぼすヒラメ」の
試食を行います。



1月の県産魚は「かぼすヒラメ」登場！
生産者の皆さんも店頭に立ち、率先してお客様にお声がけ。
「今年のかぼすヒラメも美味しー」、「身が半透明できれい」、「ほどよい食感で甘みもある」など好評を頂いた。

編集後記

今年のように悲しい正月も珍しい。屠蘇気分も醒めてしまった。悼んでも思いは尽くせないが、明日はわが身かと不安にもなる。農林漁業関係団体の新年互礼会は当漁協の当番に当たっていたため、式の構成、進行、組合長の代表挨拶も前日に集合して見直した。なんとか礼を失せずにお開きとなり安堵した。災厄で始まった年だが、昇竜のごとく運氣が高まり、良い年に変わってほしい。豊かな海づくり大分大会に向け、皆で頑張りたい。

先月は幸せなことに、関の魚を2度もいただいた。最初は新年のご挨拶に伺った佐賀関の「吾妻」。北郡の普及員として働いていた40年前は先代の古い町屋であったが、味は抜群、知る人ぞ知る名店だった。明るく改装された今も味は最高。握り14貫をはじめ、意匠を凝らした小鉢に大満足だ。(写真下)



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

ウオメシ

関の海鮮箱
佐賀関食堂

のりクエストに答えるべく向かったのが亀川マリーナの「佐賀関食堂」。私が頼んだ「関の海鮮箱」(1430円)は洋風のちらし寿司と言った逸品。(写真上)ポリウムはあるが、魚と野菜なのでヘルシーだ。家族は「関あじ関さば御膳」(2750円)をガッツリ食べて満足した(笑)。

